

第16回

住宅課題賞2016

建築系大学住宅課題優秀作品展

第16回

住宅課題賞 2016

建築系大学住宅課題優秀作品展

開場日時

2016年11月7日(月)-11月22日(火)10:00~18:00
土・日休館(但し12日(土)は開館)

会 場

ギャラリー エー クワッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店1F
<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A4

RESIDENTIAL STUDIO PROJECT 2016



一般社団法人

東京建築士会
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クウッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は16回目を迎えましたが、年々参加大学も増え、本年は37大学48学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クウッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2016年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。

課題作品は、平成27年9月（前年後期）以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm ×横594mm）縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。

大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞 賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日 時】

2016年11月12日（土） 13:00～17:00

【会 場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審 査 員】

審査員長：植田 実（編集者・建築評論家）

審 査 員：大野 博史（オーノ JAPAN）

谷尻 誠（大阪芸術大学芸術学部建築学科准教授／SUPPOSE DESIGN OFFICE）

千葉 学（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授／千葉学建築計画事務所）

中山 英之（東京藝術大学美術学部建築科准教授／中山英之建築設計事務所）

司会進行：木下 庸子（工学院大学建築学部教授／設計組織 ADH）

〔住宅課題賞 2016〕 参加大学 37 大学／ 48 学科

01.宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース

02.神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース

03.関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース

04.共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース

05.慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科

06.工学院大学 建築学部 建築学科

07.工学院大学 建築学部 建築デザイン学科

08.工学院大学 建築学部 まちづくり学科

09.国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系

10.駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース

11.芝浦工業大学 工学部 建築学科

12.首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース

13.昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース

14.女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

15.多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース

16.千葉大学 工学部 都市環境システム学科

17.千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース

18.筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域

19.東海大学 工学部 建築学科

20.東京大学 工学部 建築学科

21.東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科

22.東京藝術大学 美術学部 建築科

23.東京電機大学 未来科学部 建築学科

24.東京都市大学 工学部 建築学科

25.東京理科大学 工学部第一部 建築学科

26.東京理科大学 工学部第二部 建築学科

27.東京理科大学 理工学部 建築学科

28.東洋大学 理工学部 建築学科

29.日本大学 芸術学部 デザイン学科

30.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース

31.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース

32.日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース

33.日本大学 理工学部 建築学科

34.日本大学 理工学部 海洋建築工学科

35.日本工業大学 工学部 建築学科

36.日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科

37.日本女子大学 家政学部 居居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻

38.文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース

39.法政大学 デザイン工学部 建築学科

40.前橋工科大学 工学部 建築学科

41.前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科

42.武蔵野大学 環境学部 環境学科 都市環境専攻

43.武蔵野美術大学 造形学部 建築学科

44.明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース

45.明治大学 理工学部 建築学科

46.ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース

47.横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP

48.早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科



01 集合住宅

町の湾処〜木に集う住宅〜 宇都宮市の中心市街地に近い川沿いの商業地域に集合住宅を設計した。市街地に位置する集合住宅は、プライベートを守りつつ、パブリックな面を持つ必要があると考えた。そこで住人のための空間を2、3階に配置し、地上部分を川沿いの道に賑わいをもたらすパブリックな空間、2階の一部を住人と地域の人が交わる空間として計画することで、都市の一部として機能することを期待した。



橋本 直央 (はしもと なおひろ) 宇都宮大学
工学部 建設学科 建築学コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:安森 亮雄
指導教員名:若松 均



02 エッジに建つ住宅

この家に住む家族は静岡の駿河から引っ越してきた家族である。主人は伝統工芸の駿河和染めを受け継ぎ趣味で染物をしている。奥さんは料理好きで子供たちは外や家の中でも遊んでいる。必要な時に開閉する壁があり外と繋がるために開かれる。時には縁側、机となり交流の場となる。雨が降った時には庇となる。奥まで続く通り庭は主人が染めた染物を干したり地域の人と家族の間点となる。



大橋 千夏 (おおはし ちなつ) 神奈川大学
工学部 建築学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山家 京子
指導教員名:三笠 友洋



03 都市に建つ店舗併設の家

動かせない躯体に変動可能な部屋をつくる。好き勝手に取ってつけられていくそれは、東南アジアのバラック建築のように見える。対象敷地は違法店舗の陰が残るところにアートを新しく取り入れようとしている、これから発展していく町。私はこの町に、ベトナムの住居の「通りに対して開放的な職的空間」と「使い方によって変わる住の空間」のありかたを做った店舗併設の住宅を提案する。



村上 千紗 (むらかみ ちさ) 関東学院大学
建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹
指導教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹



04 コミュニティスペース『ひとをつなぐばしょ』がある住まい

震災以降、近所の人に「助け合う」「相談する」という関係を求める人が増えてきている。「近所の人」と「家族」をつなぐ＝「外」と「内」の境界線を曖昧する」とし、緑道の動線を連続的に引き入れながら、「地域のリビング」へと導く。多方向の様々なシーンを共有することで、「近所の人」と「家族」が共生し、「家族のような近所付き合い」を築くことができる住宅を提案する。



満島 梨美 (みつしまりみ) 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:工藤 良子
指導教員名:工藤 良子



05 デザインスタジオ基礎

慶應SFCの学生が住むことを想定したシェアハウス型の集合住宅である。グリッド状に配置された住戸と外路に加え、開口の位置を動線の先に配しているため、「視線は抜けつつも、動線が複雑に入り組む」という、さながら迷路のような集合住宅となった。周辺地域が単調であるのに対し、一つの敷地に5住戸と、それに沿った外路を作ること、学生同士の新たな関わり合いの空間をもたらす。



吉川 新之佑 (よしかわ しんのすけ) 慶應義塾大学
環境情報学部 環境情報学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:松川 昌平
指導教員名:松川 昌平



06 外のある家

敷地は住宅街・公園・河川敷という異なる環境に面している。外と内を明確に分けるのではなく3つの異なる高さの帯を積み重ね、交差させることにより生じた隙間にこの敷地ならではの外を取り入れることを考えた。植物などの視覚的なものだけでなく、公園で賑わう人の声や河川敷の穏やかな風景、近隣の人たちとの関わりを住宅に取り込むことで暮らしが豊かになる住まいの在り方を提案する。



丹羽 彩香 (にわ あやか) 工学院大学
建築学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子 指導教員名:木下 庸子、富永 祥子、小林 直弘、後藤 治、大塚 篤、阿部 俊彦、浦 俊弥、小島 公晴、関谷 源次、高塚 章夫、中山 薫、半田 雅俊、山崎 健太郎、中道 淳

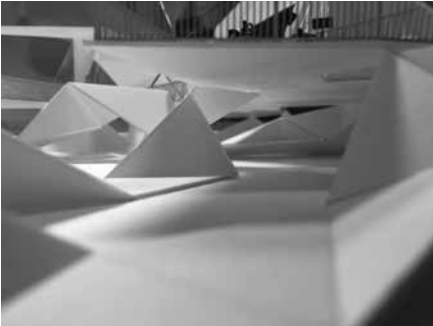


07 都市居住(都市機能を併設させた新しい集合住宅のかたち)

新宿区荒木町に「公園に住む。」集合住宅を設計する課題です。それぞれが「公園」という言葉を解釈し直し、「公園」とは何か、「公園に住む」とはどのようなことを考えて、集合住宅を提案することがこの課題の目的です。私は公園を一枚の地面、公園に住むとは全ての人がつながった地面の上に住むということと考えて、たくさんの建物をのせた地面を折り曲げた集合住宅を制作しました。



大野 由 (おおの ゆう) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／4年
課題出題時学年:3年 出題教員名:木下 庸子
指導教員名:木下 庸子、西森 陸雄、藤木 隆明、星 卓志、Kearney Michael、金箱 温春、小川 真樹、沢瀬 学

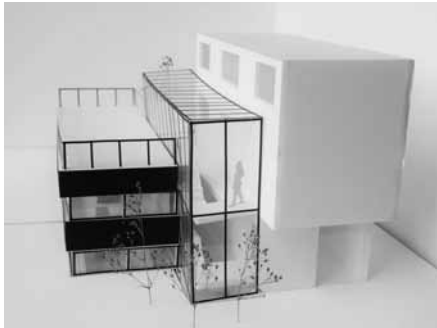


08 水辺に建つクリエイターを目指す若者のドミトリー

クリエイターが将来と向き合い、様々な人と繋がりを持てるドミトリーを提案する。まず三角形の壁の組合せで「仕切る」「囲む」「覆う」という3種類の場所を用意した。クリエイターは好きな場所で展示したり、作業に没頭したり、異分野同士で話をしたりできる。1階は地域の人々と交流しながら将来と向き合うひろがりを持つ空間、2階は異なるクリエイターが繋がりつつ生活するまとまりを持つ空間である。



朱 純嘩 (しゅ じゅんこう) 工学院大学
建築学部 まちづくり学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:木下 庸子 指導教員名:木下 庸子、富永 祥子、小林 直弘、後藤 治、大塚 篤、阿部 俊彦、浦 俊弥、小島 公晴、関谷 源次、高塚 章夫、中山 薫、半田 雅俊、山崎 健太郎、中道 淳



09 「六本木の隠れ家/RETREAT HOUSE IN ROPPONGI」の設計

今回の課題ではクリエイティブな3人が10年住まい、住居兼仕事場として利用する。私は、「3」という数字に注目しばらばらの3人のそれぞれのリズムが混ざり合って、新しいリズムになる、を意識し計画した。パブリックな部分とプライベートな部分を分け、そのあいだにガラス階段室を置くことで二つの空間をつなぎ、緩やかに、そして豊かにお互いのリズムが響き混ざり合う。



飯島 美乃里 (いいじま みのり) 国士舘大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郡 裕美、須川 哲也、鈴木 丈晴、高階 澄人、都 留理子、国広 ジョージ 指導教員名:高階 澄人



10 プラスワン空間のある集合住宅

ここは自宅で仕事をする人とその家族が住まう集合住宅。敷地全体をひとつのオフィスとして捉え、異なる仕事をしながらも互いを感じられる空間を提案する。仕事場を点在させることで「家で仕事をする＝家から出ない」ということをなくし、毎日必ず外に出て仕事場に向かい、誰かに会って言葉を交わしたり、刺激し合ったりすることが自然と起こる。仕事をする場の中に生活がある。



川井 咲恵子 (かわい さえこ) 駒沢女子大学
人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:太田 清一、茂木 弥生子
指導教員名:太田 清一、茂木 弥生子



11 様々に変化する生活シーンを考えた住宅

住宅街の「暮らす」姿は、社会から関係を断ち、敷地いっぱいに建てた家の中で完結している。家では、人に見られることに敏感になり、壁で覆い生垣で境界線をつくる。一方で、人に見られる空間を求めて、カフェに勉強をしに行く。わたしたちは、家の中ではなくこの街に暮らしているのである。街に溶ける空間「コミュニティスペース」の介入によって、この街の、ここにしかない家をつくる。



関 紗綾香 (せき さやか) 芝浦工業大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郷田 修身
指導教員名:小山 貴弘



12 名作住宅に増築する

名作住宅である旧園田邸の良さを引き立てながら、それを取り込んだ形で増築を行うにはどうしたらよいか？新規に更新する部分をいくつかのパーツで構成させることで、旧棟を含んだ各々のボリュームが一つの集集体を形成し、家全体に一体感をもたらす。そうすることで、そこに住む二世帯の家族のつながりにも一体感を持たせることができ、問いの答えが見いだせるのではないかと考えた。



川島 達也 (かわしま たつや) 首都大学東京
都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:一之瀬 雅之、諸江 一紀、宮内 義孝、猪熊 純
指導教員名:諸江 一紀、猪熊 純



13 「私たちの長屋」―三宿に暮らす―

日本の伝統的長屋。敷地内の木と連動させた結果、うねって続く屋根のラインが生まれた。ずれによって生じた空間。それは、長屋であるにも関わらず、私的庭と公的庭の同時成立を可能にさせる。都市住宅の形式をもつ田園的住宅となる。内部は、斜め屋根の下を大きな吹き抜けとし、家族の気配を感じることが出来るように床を配した。屋根と木の陥入が、吹き抜けの下に木漏れ日の影をつくる。



高松 萌希 (たかまつ もえき) 昭和女子大学
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:杉浦 久子
指導教員名:杉浦 久子



14 集合住宅計画・景観デザイン

緑側は日本独自の伝統的な空間であるが、現在都会で目にする事はほとんどなくなってしまった。人々は外部空間が最小限の家に暮らし、生活は閉じられた部屋で完結してしまっている。本計画では集まって緑側で生活することで、今日失われてきているコミュニティを取り戻し、自然を身近に感じながらの豊かな生活を提案する。住人の生活は部屋の内から外へ、外から街へ、緩やかに広がってゆく。

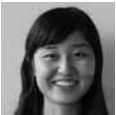


池 まりあ (いけ まりあ) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:飯村 和道、下田 倫子
指導教員名:飯村 和道、下田 倫子



15 風景の中の住空間 〜一家がくつろげる週末住宅〜

建築家の一家を仮想のクライアントとし、家族で週末を過ごすための小さな家と、その周辺環境をデザインする。場所は八王子市鎌水[絹の道資料館]近くの山村。細長い地形の中に、かつて水田として造られた美しい棚田や小川や山が広がり、ニュータウンも望める。クライアントの条件や希望を考慮し、ランドスケープ、建築、インテリアまで、ひと続きの環境としてのありかたを考える。



田丸 文菜 (たまる もな) 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース／2年
課題出題時学年:1年
出題教員名:田淵 諭
指導教員名:田淵 諭



16 MAD City House

MAD Cityを流れる坂川。街の一角には坂川との距離が最も近く、街の人の憩いの場でもある「坂川ひろば」がある。今回その広場に建つ、朝ごはん屋と一人暮らしの家という2つの役割を持った「私の家」を提案する。川の側で川と共に暮らしながらも、段々と街に溶け込んでいく空間を持ち、それによって川辺の広場の新しい魅力を引き出し、広場の景観も改善されるような、そんな家を提案する。



儀野 小梅 (いその こうめ) 千葉大学
工学部 都市環境システム学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙
指導教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙



17 住宅の設計

敷地から太陽の位置、敷地周辺にある人の流れ、隣接する住宅やアパート、公園との関係からそれぞれに対する線を引き、カット。公園からの流れを引き込み、半内部と半外部の空間が家中をぐるぐると回るように配置し、流れを発生させ家の外と中の境目をなくす。広がる視線の道筋を引き、家族がお互いの存在を感じやすく、雨の日でも家中で楽しく過ごせる住宅。



稲場 瑞希 (いなば みずき) 千葉工業大学
工学部 建築都市環境学科 建築設計コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:遠藤 政樹
指導教員名:遠藤 政樹

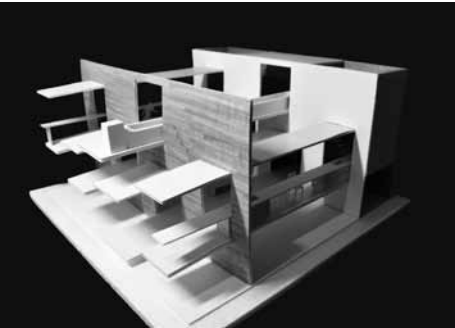


18 都心の住宅地に建つコンドミニアム

戸建て住宅の庭のように大きく、様々な形をしたテラスを住戸の部屋に併置した。テラスは部屋よりもひとまわり大きいため、居住者はテラスの使い方を積極的に考えて使わなければならない。テラスの使い方を考えることは、見方を変えれば都市との付き合い方を考えることだ。この集合住宅に住む人は部屋と都市の間にあるテラスで、都市というものに向き合うことが求められる。



杉崎 広空 (すぎさき ひろたか) 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:花里 俊廣
指導教員名:花里 俊廣



19 境界のないイエ・ドアのないイエ

住まい方は価値観の多様化に伴い変化している。壁やドアのような「見える境界」ではなく、「意識的なキョリ」で領域を緩やかに繋ぐイエを考えた。2つのプライベートな空間を引き離し、「たべる・くつろぐ・かつどうする・あらう」に分けられたチューブで繋ぐ。住む2人の「意識的なキョリ」が、人と人・人とマチの関係性を緩やかに繋ぎ、空間のかたちを変えていく。



小松 未依 (こまつ みい) 東海大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:吉松 秀樹
指導教員名:吉松 秀樹、山崎 俊裕、渡邊 研司、古見 演良、山縣 洋、河内 一泰、田島 芳竹、白子 秀隆、井上 玄、山口 紗由



20 スターハウス集合住宅ミュージアム+未来型集合住宅

現在建物の劣化により建替が行われている赤羽台団地の中でも、かつて先進性の象徴であったスターハウスのリノベーションと、それに連なる新築棟の設計。「集合住宅」という言葉から想像されるのとは反対にあえて疎に住むことで、集合住宅に木洩れ日の空間を生み出し、豊かな緑や陽光、風を感じながら自らの生活空間を好みに作っていくことのできる未来型の暮らしを提案する。



藤本 月穂 (ふじもと つきほ) 東京大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年 出題教員名:大月 敏雄
指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、成瀬 友梨、青木 弘司、海法 圭、能作 淳平、萬代 基介



21 シェアハウス／〇〇が集まって棲む家

Sudare inn 日本を訪れる旅行者が滞在するための宿を提案します。簾をモチーフにした「Sudare inn」は、光・風・街の音を適度に透過させながら内と外を仕切ります。宿泊室も床座で布団を利用し、障子や襖などの建具で仕切ること空間の連続性・可変性を大切にしました。「Sudare inn」は都心に居ながら日本の文化を五感で感じ、人と人との繋がりを大切にしたいシェアハウスです。



佐藤 緑子 (さとうのりこ) 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:瀬川 康秀
指導教員名:瀬川 康秀、原口 秀昭、前鶴 謙二



22 住宅I

『とまり木』 鳥たちがとまり木を自由に飛び回るように過ごす家です。都心の小さな敷地のなかで三人の同居人が暮らします。通りに面して友人などを迎えるソーシャルな場、それに対して隣家に面しては大きな鳥小屋がファサード一面にあり、緩衝材となります。この二つに挟まれて、高さ方向に長い個人の部屋が三つが並びます。それぞれは、平面ではなく断面的なプランでつながり、人々は様々なレベルで飛び交うように暮らします。



湊崎 由香 (みなとぎき ゆか) 東京藝術大学
美術学部 建築科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:乾 久美子、河内 一泰、市川 竜吾
指導教員名:乾 久美子、河内 一泰、市川 竜吾



23 集合住宅の設計

敷地がコモンスペースを貫くような細長い形をしており、2つのコモンスペースを分断している。そのため、どこからでもアクセスが可能であるように小さな路地のような空間を多くとり、自由な行き来を可能にした。また、ほとんどすべての住居をメゾネットで構成し、各住居に大きなバルコニーやウッドデッキを設けることで一戸建てが連なる個性あふれる「街」のような空間を目指した。



高橋 征己 (たかはし まさき) 東京電機大学
未来科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山田 あすか
指導教員名:中山 薫

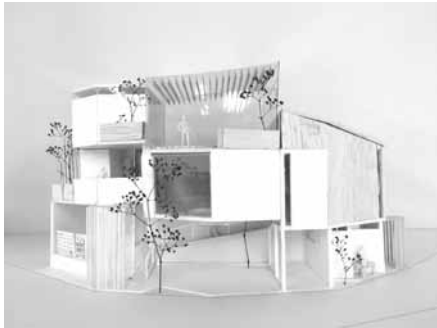


24 子沢山の街

この集合住宅では4つの家族が彼らの子供達を通じて1つの大きなコミュニティを作っていく。彼らはお互いに助け合い成長していく子供達を見守り“共育”していく。中央の吹き抜けに子供のための空間を配置しその中で子供達は経験やコミュニティをシェアしていく。やがて4つの家族は1つの大きな家族となり彼らの子供と彼ら自身で成長させるだろう。



鶴田 叡 (つるた あきら) 東京都市大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:手塚 貴晴、柏木 穂波、栗田 祥弘、富川 浩史、松井 亮
指導教員名:松井 亮



25 根津に住む

この敷地は、根津の中でも特徴的な“へび道”に面している。この計画では、1階部分に子供や老人が日常的に集う空間と、様々な使い道の教室空間を設定した。街を引込み、そこをスロープで通り抜けて2階の住居に入る。根津のもつ、街と住居の緩やかな関係をモチーフとした。また、フロアや壁を少しずつずらすことで隙間を生み出し、音や光、目線で緩やかに繋がってゆく住宅を提案する。



深田 奈瑞 (ふかだ なみ) 東京理科大学
工学部第一部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:石橋 敦之、薩田 英男、船木 幸子、峯田 建、細矢 仁、熊谷 亮平、岩澤 浩一
指導教員名:石橋 敦之



26 三宿の住宅

間のない土間。日本の住宅によくある土間。土間は玄関や台所や、あるいはご近所さんが来て立ち話するちょっとした応接スペースになる。たくさんの方が空間を仕切ることなく行われる。間仕切れる間。家族は時と共に成長する。その成長に応じて生活も変化する。増えたり減ったり、合体したり分かれたり。空間も変化するべき。現代の住宅にそんな2つの間のある土間の家を提案する。



中村 園香 (なかむら そのか) 東京理科大学
工学部第二部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:栢木 まどか
指導教員名:栢木 まどか

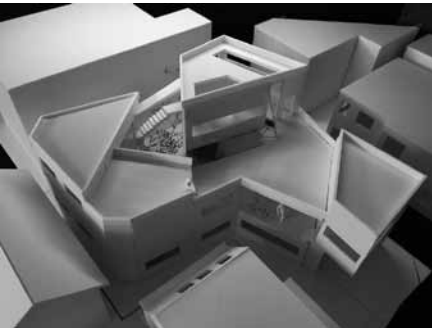


27 週末住宅＝もうひとつのイエ

繋がりの筒 都会の喧騒から離れて、生のままの自然をキャンプとは違う形で楽しむための建築。この建築は山の斜面に銃口のように行んでいる。先端には壁がなく室内空間が閉じていない。室内には風が通り、鳥のさえずりが聞こえる。季節、天候に大きく左右される週末住宅。外の自然と繋がること、自然がもたらす快楽を受ける一方、雨風に代表される自然への覚悟ができる。



辻川 樹 (つじかわ たつき) 東京理科大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:垣野 義典
指導教員名:森 清敏



28 家族をリスタートする住宅

近年、ライフスタイルの多様化により、一つの住宅に一つの家族が暮らす、という形はもはや定型とは言えなくなりつつある。今回、ある家族7人が一つ屋根の下で生活を始めることになった。そこで“住む”ということを根本から考え直す。人ひとりを単位として家となじみ、それぞれの生活を守りながら、本当の意味で家族となっていくような家を提案する。



嶋田 葵 (しまだ あおい) 東洋大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:篠崎 正彦
指導教員名:篠崎 正彦

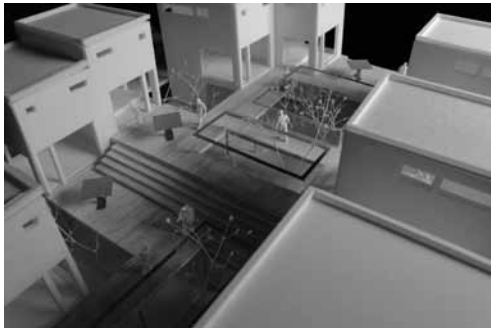


29 『私のアトリエ』…空間の原点を掴む

緑のある住宅街にアトリエ兼住宅を設計した。私にとってのアトリエとは発想の場。アイデアを考えると私の頭の中には様々なものが存在している。そこで私は、この空間の中にあるすべてのものがかき混ざり、頭の中のような空間をつくれないかと考えた。そこに存在する自分自身もこの空間でかき混ぜられ、様々なものと一つになることで、新しい発想につながる。そんな空間を私は設計した。



小林 遼大 (こばやし りょうた) 日本大学
芸術学部 デザイン学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:熊谷 廣己
指導教員名:熊谷 廣己



30 街に開く集住体 ―神楽坂の集合住宅

人は住戸に、街→庭→玄関という順で踏み入れる。街と玄関を中心に繋ぐ「庭」という場の使われ方で「街に開く」ということに強く繋がると考えた。庭は二層で構成し「街の庭」と「入居者の庭」だ。住む人が各住戸の土間で賑わせる街の庭。街の人は入ることのできない入居者だけの庭。二つの庭と街は、視線と住み方で繋がれる。住み開きにより積極的に都市に関与する集合住宅の提案です。



池田 光 (いけだ ひかる) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:内村 綾乃
指導教員名:内村 綾乃

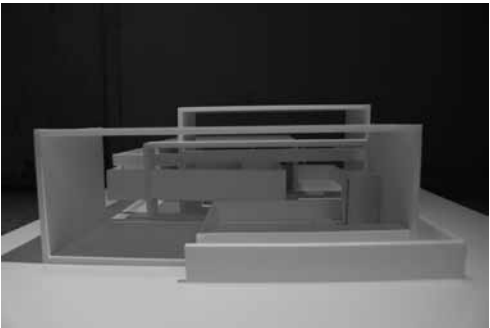


31 大久保通りを元気にする集合住宅 ―多様性を取り込んだ集合住宅

従来の集合住宅とシェアハウスの中間の住まいを提案する。今ある玄関を境とした共用空間では家の外という感じが強く愛着が湧きにくい。もし各部屋から直接共用部にできることができ、その共用部が各部屋の機能を補完するものであったら、そこは自分の家の延長線上に位置付けられもっと身近な空間になるのではないだろうか。境界が曖昧になったこの建築の共用空間は、自分の家の一部となる。



山下 ジロ (やました じろ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:泉 幸甫、森山 ちはる
指導教員名:泉 幸甫、森山 ちはる

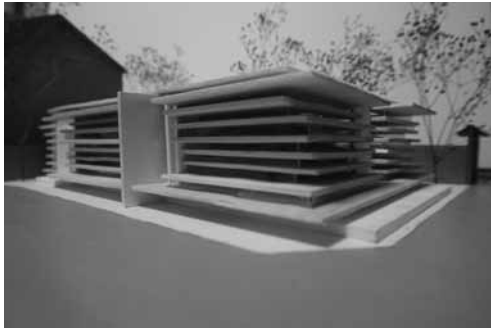


32 住宅課題「〇〇の住宅」

住宅街と大きな道路に面した土地であるため、少し窮屈で息苦しい敷地である。そこで過ごしやすい空間を作り出すため壁ではなく帯を使用した。そうすることで周囲からのプライバシーを守りつつ内部と外部が親密な関係を持ち、隣地と溶け込む中間領域が生み出される。動線と視線を考え高さや幅の違う縦と横の帯を組み合わせることで、より動きやすくより開放的で心地よい空間を設計した。



小山 佳織 (こやま かおり) 日本大学
生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:渡辺 康、山中 祐一郎
指導教員名:渡辺 康、山中 祐一郎



33 住宅

人間は常に体格的・精神的に変化している。一方そんな人々が暮らす従来の住宅は不変的である。その住宅を死ぬまで、住人が死んでも使い続けられるためには可変的でなければならない。さらにそれを住宅の域にのみ収めるのではなく、即ち可変性のある住宅ではなく可変性のある建築であるべきとして、住宅として使われなくなった後も使われ続けるような遠い未来にまで目を向けた建築である。



荒井 聖己 (あらい まさき) 日本大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:佐藤 慎也、山中 新太郎
指導教員名:遠藤 克彦



34 北十間川の集合住宅 ～美術館と水辺に隣接する DINKS のための集住体～

敷地南側には1.5kmにわたって続く大横川親水公園が存在し、敷地との間に美術館と北十間川(両岸にプロムナード)がある。この住宅では公園から北を見たときに立ちふさがる壁ではなく視線を受け止め、受け流す外観と帰宅時間がバラバラなDINKS同士が集まって住むためのコミュニティスペースとして居間を延長した共用テラスなどを設けている。



黄 起範 (ふあん りの) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科／3年
課題出題時学年:2年 出題教員名:松井 正澄、石川 雅英
指導教員名:川久保 智康、榎本 弘之、井上 武司、松井 正澄、木内 厚子、長井 義紀、石川 雅英、菅原 遼



35 賄い付き下宿・再考

日工大の裏にあるペンションあきの敷地周辺は田畑に囲まれ、静かで見晴らしの良い環境だ。学生24人と大家さん一家の計27人が快適に暮らすために、個々の空間と共有空間それぞれにゆとりを確保しつつ、圧迫感のない周辺の住宅にとけ込むような集合住宅にした。また、下宿屋と地域のつながりを得るため食堂を玄関兼交流の場の中心とし、帰宅時や休日などにも「常に人がいる場所」があることで安心感や交流が生まれるようにした。



山岸 はるか (やまぎし はるか) 日本工業大学
工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:小川 次郎、平林 政道
指導教員名:小川 次郎、平林 政道



36 シェアハウスの設計

他人との生活はシェアハウスならではの暮らし方であり、日常的に人との交流が生まれることが住人にとっての楽しさ、豊かさではないだろうか。そこで、部屋を極力壁で閉じることなく、そとで過ごすシェアハウスを考えた。小さな3つの居場所と、それによって現れる領域が個人スペースとなる。物や植物で彩られた領域が、共有スペースとそとと馴染み合ってできるシェアハウス。



坂本 佳奈 (さかもと かな) 日本工業大学
工学部 生活環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:足立 真、白子 秀隆
指導教員名:足立 真、白子 秀隆



37 21人のための家、あるいは集合住宅、あるいは、

住人だけでなく近隣にとっても、通過点や分岐点となる場所。世代や背景によって異なる、様々なライフスタイルの住民が共存できる住宅を目指した。3タイプあるSUBACOと呼ばれる箱型を住人が選択し棲みついていく。近隣住民もSUBACOをハナレとして活用する。ハナレからハナレへと移動していく時、人と人とが自然とお互いを意識する。



平井 未央 (ひらい みお) 日本女子大学
家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:宮 晶子、定行 まり子、東 利恵、寶神 尚史、植木 健一、渡辺 真弓
指導教員名:渡辺 真弓



38 ○○のある低層集合住宅

共通の趣味のある人が集まって住むというのは会話が弾み、交流も深まる。ここでは創作が好きな人が集い、作った小物や食品を販売する店舗のある集合住宅を提案する。物を売ったり買ったりすることで地域の人とも交流できる店舗を1階に配し、その周りに設けたピロティは商品の陳列やテラス席として活用できる。ピロティ越しに中庭が見通せ、敷地の外からにぎわいを感じることができる。



岩間 美咲 (いわま みさき) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:龍口 元哉
指導教員名:龍口 元哉、安野 彰

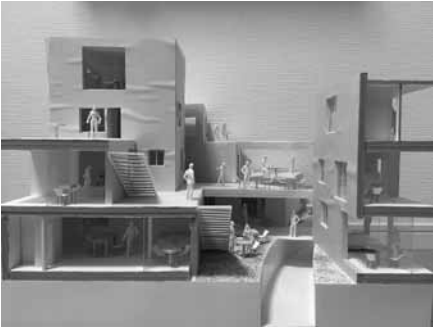


39 Tokyo Guest House

月島は、今現在も昔の路地空間が残る。路地は、地域の人にとってはコミュニケーションをとる場として生きているが、地域性が強いため、様々な人が利用する場としては問題があると感じた。そこで、コーポラティブハウスを設計するにあたり、地域の人も利用でき、そこに住む人や様々な国から訪れるゲストも住みやすいと感じ、月島ならではの生活ができるような、新たな路地空間を提案する。



羽田野 美樹 (はたのみき) 法政大学
デザイン工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:下吹越 武人、渡邊 眞理、後藤 武、Leslie VAN DUZER
指導教員名:下吹越 武人



40 「集合住宅」―水路のある低・中層集合住宅―

敷地内には風呂川が流れ静かなせせらぎが聞こえる。この川に人が沿い、コミュニティが川に沿うような集合住宅を提案する。川の水面は地面から2mほど下の位置を流れているためそこに川棚的空間を設け、水に親しめるようにする。カフェや共有テラスを川に関係させて各層に設けることで川を建物全体に広げ、住民全体で共有できるようにする。



加藤 諒 (かとう りょう) 前橋工科大学
工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:石田 敏明、石川 恒夫、木島 千嘉
指導教員名:石黒 由紀

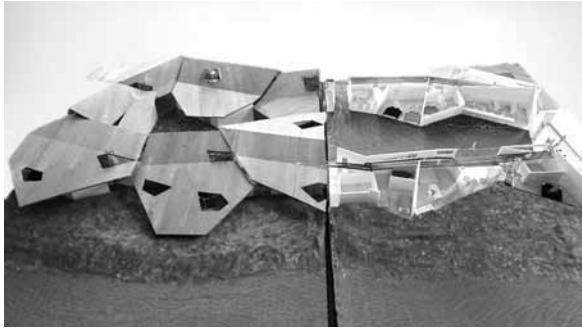


41 前工大学生村 〜集まって住む楽しさのデザイン〜

建築において壁は単に空間を囲い、隔てるものとして捉われがちだが壁の持つ可能性はそれだけなのだろうか。伸ばしたり折ったり、消したりすることによって壁を変化させ、空間の質や意味に多様性を付けることも可能ではないだろうか。本作品では壁が空間にもたらす可能性を意識し20名が住む学生寮を設計した。そこでの壁は公と私の空間に連続しこの建築においてのシンボルとなっている。



松本 雄貴 (まつもと ゆうき) 前橋工科大学
工学部 総合デザイン工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:松井 淳
指導教員名:松井 淳、橋倉 誠、稲見 成能



42 働きながら住む10世帯の空間

共働きで1人でいることが多いこどもたちのための10世帯。おかえりもなく、晩ごはんも1人、そんなこどもたちが帰りたい、居たいと思える家にした。大家さんはこどもが大好きな男性カップル。こどもたちの第二の親になれたらと。さらに、近所のこどもたちも集まれたらと。パン教室でわいわい食べたり、天井付近を輪状に繋いだ“こども道”を走り回ったり、色々な勾配の屋根で遊んだり。



橋本 紗奈 (はしもと さな) 武蔵野大学
環境学部 環境学科 都市環境専攻／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡
指導教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡



43 経堂プロジェクト ―住宅+αの新しい可能性を提案する―

住宅+αの新しい可能性を提案する課題である。+αされたものと住宅が直接的な関係(商業やコミュニティ)で併存するのではなく、+α側の副産物的な特性を抽出し、それを住宅に取り込むことで新しい住宅の提案になるのではないかと考えた。具体的には+αとして倉庫(蔵)付きの米屋を設定し、“蔵の暗がり”が住宅内部とその暮らしに大きな影響を及ぼすように設計した。



羽根田 雄仁 (はねだ ゆうじ) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂、青木 弘司
指導教員名:布施 茂、青木 弘司



44 今日の共用住宅(シェアハウス)

ひとつの屋根の下で。
・若者×高齢者×地域。世代をこえてふれあいが生まれるシェアアパートメント
・つながるひととまち。一人で暮らす老人と地方から出てきた若者や学生が同じ屋根の下で暮らし、地域とも生活スペースを併用することで、様々な世代との交流が生まれるように設計した。



今川 史野 (いまがわ ふみの) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕
指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕



45 目黒川沿いの集合住宅

人は生活を営む。つまり活動する。活動するということは、“動く”ということだ。部屋という“ハコ”に閉じこもる都会の生活は、行動の制限だけでなく、隣人とのつながりの制限もしてしまう。そこで目黒川に面するこの土地に、南から差し込む光を各住戸が取り込める、住戸全体が部屋でありながら動線である集合住宅をつくる。これが“ハコ”という住居から人々が“動く”家となる。



田中 美有 (たなか みゆ) 明治大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:田中 友章
指導教員名:大河内 学



46 集合小住宅

『住人と町に開いた町屋』 行田市は500年前城下町として栄え明治から昭和にかけて足袋作りが盛んとなり、今も多くの足袋蔵が残っている。このような歴史ある風景とそこに住まうのどかな人々がこの町の魅力である。本計画は住み手と町それぞれに開く事を目的とし、2つの開いた空間を流動的に結び付ける事で、住み手と地域繋がりをもより強固にしていくことを意図している。



天久 七光 (あめく ななみつ) ものづくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:藤原 成暁
指導教員名:藤原 成暁



47 自然のなかの居住単位

住宅は何世代にも亘って人を支え、人に支えられるようなものであって欲しい。そのままでは朽ちていく木造建築物を徐々に新陳代謝させることで、そこに住んだ人の記憶や自然と対峙した学びが途切れる事なくなめらかに続く住宅がつかれるのではないかと考えた。これは、最下層をジャッキダウンすることで行われる減築と屋根上への増築が40年周期で繰り返される木造建築文化の仮定である。



伊神 空 (いかみ あお) 横浜国立大学
理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:北山 恒
指導教員名:藤原 徹平、三浦 丈典、仲 俊治、針谷 将史、中川 エリカ、御手洗 龍



48 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい ―Activate Waseda―

早稲田大学本キャンパス北側住宅地の地形・歴史を読み解く。浮かび上がってきたのは、水神神社へと集まってゆくかつてのあぜ道である。この鎮守の森とあぜ道との関係こそがこの場所の固有性なのではないか。都市のなかに埋もれたかつての風景を想起させるような建築を提案する。くらしの機能をばらしY字路に配置しシェアする。地区一帯に自分のくらす風景の記憶がのこる。



軽部 蘭 (かるべらん) 早稲田大学
理工学術院 創造理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名／指導教員名:入江 正之、渡辺 仁史、佐藤 滋、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、小岩 正樹、藤井 由理、渡邊 大志、阿部 俊彦、小林 恵吾、山村 健、斎藤 信吾

第16回住宅課題賞2016 建築系大学住宅課題優秀作品展

主催:一般社団法人 東京建築士会
後援:公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
特別協賛:株式会社 総合資格
協力:公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]
企画・編集:鷺海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作:株式会社 ケシオン
発行:一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会
〒104-6204 中央区晴海1-8-12 オフィスタワー Z 棟4F (晴海トリトンスクエア内)
[TEL] 03-3536-7711 [FAX] 03-3536-7712 [E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp
[URL] http://www.tokyokenchikushikai.or.jp

© 一般社団法人 東京建築士会 2016



ニチアス

耐火遮音間仕切壁用
ロックウール断熱材

MG ビルパック®

耐火遮音間仕切壁・一般壁（音の気になる部位）の
充填に使用できます!!

265巾
303巾
新登場!

特長

吉野石膏株式会社様

『A-2000・WI』『B15・WI』『ハイパーウォールZ・WI』などの耐火遮音間仕切壁に使用できます。

チヨダウーテ株式会社様

『ゼナジーウォール 12C・G』『耐火ウォール 12C・G』などの耐火遮音間仕切壁に使用できます。

- グラスウール24K品と同等の断熱性能があります。
- カット手間が省け、施工スピードがアップし、省人化が図れます。
- 全面をポリエチレンフィルムで包み込んでおり、施工時に繊維の飛散が大幅に低減できます。
- 各スタッドのピッチにあわせたサイズを取り揃えています。
- JISA9521（建築用断熱材）の認証製品です。
- 不燃認定を取得しています。（NM-4203）



これまでは“**チクチク**”する
裸の断熱材を現場で
カットしていました。



現場名：京都大学 吉田キャンパス

カタログ請求など、お問い合わせは以下連絡先をお願い致します。

ニチアス株式会社

建材事業本部 担当：本間

TEL:03-4413-1161 FAX:03-3552-6130

FLX

技術が生んだ進化のカタチ。

FLEXIBLE PARK

フレキシブルパーク

NISSEI は、人と車と街と、いい関係。

本 社

〒105-8411 東京都港区西新橋一丁目18番17号(明産西新橋ビル)

TEL.03-3502-9555~7(ダイヤルイン) FAX.03-3597-9548

parking_n@nissei.co.jp

大阪支店

〒541-0053 大阪市中央区本町四丁目4番24号(住友生命本町第2ビル)

TEL.06-6244-9401(代表) FAX.06-6244-9408

osaka_n@nissei.co.jp

日精株式会社

GRAVIO

グラビオ

美しい仕上がりと
省施工を実現する不燃壁材。



下地材で実績のある「ダイライト」を基材とした、
不燃の内装化粧板が新しく誕生しました。

「軽量性」「加工性」に優れ、木口形状の工夫により
納まりをきれいに、施工の省力化を可能にした不燃壁材。

施設空間はもちろん、住空間にも幅広くおすすめできる、
上質な木目柄を多彩にラインナップしました。

これからの内装仕上げ材のスタンダード、「GRAVIO」。

美しく清潔な内装をキープし、施設や住宅の価値を高める化粧板です。

キノウを超える、ミライへ。

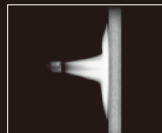
DAIKEN

ダイライトの特長



GRAVIOの基材は耐熱性、防火性に優れた鉱物繊維と火山性ガラス質堆積物を原材料にしたDAIKEN独自の高性能基材「ダイライト」を採用。

優れた不燃性



国土交通省の性能認定を受けた高い不燃性能をもつ壁材です。

優れた軽量性



一般的なメラミン化粧板の2/3の軽さ、持ち運びもラクです。

優れた加工性



簡単な加工なら、手ノコでもOK。

公共商業施設向けのショールーム

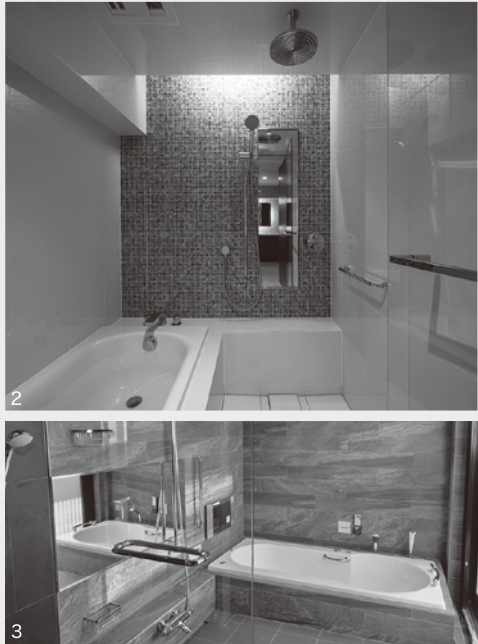
「音」「床」「壁」「畳」「ドア」「天井」の6つのコーナーで技術・製品を紹介するショールームです。商談やプレゼンテーションを行うミーティングスペースや、実物サンプルを用いてコーディネートができるシミュレーションスペースも備えています。



DAIKEN 秋葉原テクニカルスペース

〒101-8950
東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル3F
TEL : 03-6271-7600
FAX : 03-5296-4041
開館時間：平日10:00～17:00 ※予約制
休館日：土曜日、日曜日、祝日、夏期、年末年始
<http://www.daiken.jp/building/ts/akihabara/>

バスルームを自由にデザインする



介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。

また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



大型浴室や機械式浴槽設置も可能です。

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。

またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせ、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様の要望に応じてお造りしています



平成27年度

1級建築士 卒業学校別実績

下記学校卒業生合格者の

6割以上が総合資格学院の現役受講生!!

下記学校卒業生合格者
総合資格学院 現役利用率



合格者2,161名中、総合資格学院現役受講生1,359名

〈平成27年度 1級建築士設計製図試験 卒業生合格者20名以上の全学校一覧〉

日本大学	卒業合格者	225	総合資格学院	利用者数	147
東京理科大学	卒業合格者	132	総合資格学院	利用者数	90
早稲田大学	卒業合格者	99	総合資格学院	利用者数	60
芝浦工業大学	卒業合格者	78	総合資格学院	利用者数	53
近畿大学	卒業合格者	73	総合資格学院	利用者数	35
工学院大学	卒業合格者	66	総合資格学院	利用者数	34
明治大学	卒業合格者	54	総合資格学院	利用者数	37
神戸大学	卒業合格者	51	総合資格学院	利用者数	34
京都大学	卒業合格者	47	総合資格学院	利用者数	21
京都工芸繊維大学	卒業合格者	46	総合資格学院	利用者数	26
金沢工業大学	卒業合格者	45	総合資格学院	利用者数	20
関西大学	卒業合格者	45	総合資格学院	利用者数	32
法政大学	卒業合格者	44	総合資格学院	利用者数	29
大阪工業大学	卒業合格者	43	総合資格学院	利用者数	32
神奈川大学	卒業合格者	43	総合資格学院	利用者数	29
九州大学	卒業合格者	43	総合資格学院	利用者数	29
東京電機大学	卒業合格者	40	総合資格学院	利用者数	23

東京都立大学	卒業合格者	40	総合資格学院	利用者数	29
名城大学	卒業合格者	40	総合資格学院	利用者数	22
広島大学	卒業合格者	40	総合資格学院	利用者数	29
名古屋工業大学	卒業合格者	39	総合資格学院	利用者数	28
東京大学	卒業合格者	36	総合資格学院	利用者数	20
千葉大学	卒業合格者	35	総合資格学院	利用者数	23
広島工業大学	卒業合格者	35	総合資格学院	利用者数	23
東海大学	卒業合格者	34	総合資格学院	利用者数	21
二重大学	卒業合格者	33	総合資格学院	利用者数	26
熊本大学	卒業合格者	32	総合資格学院	利用者数	20
横浜国立大学	卒業合格者	32	総合資格学院	利用者数	20
福岡大学	卒業合格者	31	総合資格学院	利用者数	20
北海道大学	卒業合格者	31	総合資格学院	利用者数	16
大阪大学	卒業合格者	30	総合資格学院	利用者数	17
東京工業大学	卒業合格者	29	総合資格学院	利用者数	20
中央工学校	卒業合格者	29	総合資格学院	利用者数	20

名古屋大学	卒業合格者	29	総合資格学院	利用者数	21
鹿児島大学	卒業合格者	27	総合資格学院	利用者数	16
千葉工業大学	卒業合格者	27	総合資格学院	利用者数	17
大阪市立大学	卒業合格者	26	総合資格学院	利用者数	18
信州大学	卒業合格者	26	総合資格学院	利用者数	16
大分大学	卒業合格者	25	総合資格学院	利用者数	14
首都大学東京	卒業合格者	25	総合資格学院	利用者数	17
新潟大学	卒業合格者	25	総合資格学院	利用者数	14
東北大学	卒業合格者	24	総合資格学院	利用者数	13
室蘭工業大学	卒業合格者	24	総合資格学院	利用者数	13
大阪工業技術専門学校	卒業合格者	23	総合資格学院	利用者数	10
前橋工科大学	卒業合格者	22	総合資格学院	利用者数	17
日本工業大学	卒業合格者	21	総合資格学院	利用者数	11
立命館大学	卒業合格者	21	総合資格学院	利用者数	21
関東学院大学	卒業合格者	20	総合資格学院	利用者数	15
京都造形芸術大学	卒業合格者	20	総合資格学院	利用者数	10
慶應義塾大学	卒業合格者	20	総合資格学院	利用者数	15

※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。



平成27年度 1級建築士 設計製図試験

全国
ストレート
合格者占有率

60.5%

他講習
利用者
+
独学者

総合
資格学院
現役
受講生

【平成27年度 学科+設計製図】
全国ストレート合格者
合計1594名中
当学院現役受講生965名
<平成27年12月17日 現在>

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。

平成27年度 2級建築士 設計製図試験

当学院
基準達成
現役受講生合格率

96.7%

達成

出席率8割、宿題提出率8割、
総合模範試験正答率6割を達成した
当学院現役受講生949名中、
合格者918名
<平成28年8月23日 現在>

NEW:平成29年度試験対策各種講座、募集開始!!

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級
管工事施工管理技士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター



総合資格学院



おかげさまで平成27年も
「1級建築士合格者数日本一」を
達成いたしました。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院
学院長
岸 隆司



東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F TEL. 03-3340-2810 <http://www.shikaku.co.jp> 総合資格

【法定講習】 監理技術者講習 / 一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習 / 第一種電気工事士定期講習

Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階(建物右側の外階段より2階へお上がりください)

【営業時間】10:30~18:00 [定休日]日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」
「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net